

1 研究課題名

先端技術等を活用した犯罪者プロファイリングの開発に関する研究

2 研究担当者

主研究担当者 横田 賀英子 犯罪行動科学部捜査支援研究室
他研究員 8 名

3 研究期間

令和 4 年 4 月 ～ 令和 8 年 3 月（4 年計画）

4 研究予算

令和 4 年度	1 9, 8 5 0 千円
令和 5 年度	2 3, 0 0 0 千円
令和 6 年度	2 4, 0 0 0 千円
令和 7 年度	2 4, 0 0 0 千円

5 研究課題の背景

犯罪者プロファイリングは、①複数事件から同一犯による事件を推定する事件リンク分析、②年齢層や犯罪経歴等の犯人特徴を推定する犯人像推定、③犯人の居住地や次回以降の犯行エリアを予測する地理的プロファイリングによって、未解決事件の捜査を支援する技術である。③の地理的プロファイリングについては、特別研究「地理的プロファイリングの高度化に関する研究」（令和元年度～3年度）において技術の高度化を図っている。他方で、事件リンク分析、犯人像推定については、10 年以上前に特別研究が終了し、さらに、その成果として開発・全国配布したシステムの機能改修もなされていないため、先端技術を用いた手法の開発が急務である。

6 期待される成果・波及効果

本研究において、現場向けの犯罪者プロファイリングのためのシステム開発を行うことで、犯罪者プロファイリングを、全国的に統一された標準的な手法で効率的に行うことが可能となり、犯罪者プロファイリングの分析精度の向上及び更なる普及につながり、事件の早期解決に貢献できる。

これまで事件リンク分析や犯人像推定については、主に捜査支援研究室で心理学的観点から研究を行ってきたが、捜査支援研究室と知能工学研究室が共同して研究を行うことで、心理学のモデルを踏まえた上で、情報工学の観点からも検討を行い、より高度な先端技術を活用したシステムを構築することが可能となる。

7 関連研究の国内外の状況

過去に、事件リンク分析や犯人像推定に関する研究は数多く蓄積されているが、時空間モデリングアプローチを応用した事件リンク分析や最新の機械学習を取り入れた犯人像推定に関する研究は、国際的にも数少ない。したがって、本研究の学問的な新規性は国際的に見ても高い。

8 予定している研究交流体制

関連する研究を行っている国内外の大学、司法機関に所属する研究者や実務家と交流し、犯罪者プロファイリングの手法、機械学習や時空間モデリング等の先端技術の手法、司法機関における既存の捜査支援システムの概要や活用方法等に関する情報収集を積極的に行い、相互の技術の向上を図る。当研究で得られた成果は、国内外の学会、専門誌において発表し、関係する領域の研究者と意見交換を行う。

※これらの情報は事前評価の時点（予算要求前）のものであり、研究の内容や予算額等は実際と異なる場合があります。